

予想しなかった出会い

大阪府堺市

佐々木文吾／優子

「人が、ひとりであるのは良くない」
(創世記2章18節)

神さまの定め通り、人はある年齢を過ぎるとたいていは結婚を考えるようになる。

結婚するという人の話を聞いている限りは、誰も簡単に相手を見つけているかのように思えるのに、いざ自分自らの結婚相手となると、そうそう簡単に結論は出ない。

特に女性は、同じ信仰を持つ男性という条件の下で探そうとすると、そもそもクリスチャン男性の絶対数が足りないという事実が立ちはだかる。そして年齢が進むに連れて、ますます対象となる人の数は減っていき。



「バランスをとるには、世の中の男



性をもっと教会に連れてきてクリスチャンになってもいい

理想論としてはそうなのだが、分かつてはいてもそれがなかなかできないのが現実である。

ところが、世の中の若い男性たちが続々と教会に来るようになり、クリスチャンになって信仰に基づいた家庭を築いている教会があると聞き、編集者が取材に出かけた。大阪府堺市の堺大浜キリスト教会(なかにたてはるばいのたかし)(中谷建春牧師、唄野隆代表役員)である。

今回お話をうかがったのは、今年の4月に結婚したばかりの佐々木文吾、優子夫妻です。文吾さんが28歳で、優子さんは一回り上。

優子さんは、堺大浜キリスト教会が伝道所の頃から家庭を解放して教会の基礎を築いてきた、唄野隆／絢子(あやこ)夫妻の三女。牧師の中谷建春さんは、義理の兄(長女である姉の直子さんのご主人)。下の姉である容子さんは、OMF総主事の菅家庄一郎さんの夫人である。

幼い頃から信仰を育まれていた優子さんだから、優子さんも牧師と結婚してもあながち不思議とは言えない環境なのだが、神さまは別のプランをお持ちだった。

優子さんが勤めていたアウトドアスポーツ用品の会社で出会った文吾さん。

当時は未信者の年下の男性「佐々木文吾君」は、自転車乗りで一緒に遊ぶ多くの若い男性たちの中の1人だった。

「クリスチャン以外の人との結婚は考えられない」という意識の優子さんだから、自転車仲間として出会った佐々木文吾さんにも、何よりも福音を知ってもらうための節度のある関わりを持っていった。年の差もあり、結婚の可能性などは、双方とも当初はまったく考えていなかった。

—第一印象はいかがでしたか？

文吾 「よく笑って、面白そうな人だな」とは思いました。よく人に声をかける人で、彼女が僕の同期に声をかけて、僕のところにも話が来て一緒に行ったんですが、「なかなか変わった人だな」と。

—どういふふうに変わっていたんです



か。文吾 マウンテンバイクってのは、あまり女の人はしないんです。

—ユニークということですね。優子さんのほうは、いかがでしたか。

優子 「静かな人だな、しゃべらないな」と。それは今も変わってないですけど。

—お二人ともマウンテンですか。

優子 はい。マウンテンにも2種類あって、一生懸命こぐ人と楽をしたい人があります。私は楽をしたいほうです。彼は一緒に行ってもいつも一番後ろにいてくれて、プレッシャーだなどと思っただけです。「早い人が後ろにいくと、退屈だろう」と。(以下略)